

再評価チェックリスト

1 事業概要

事業の名称	東京都計画道路補助第26号線 (目黒中央)	評価該当要件	5年間継続 2回目
実施主体	東京都(建設局) 事業所管部署	道路建設部街路課	
都市計画決定(当初)	昭和21年度	事業認可年度(当初)	平成19年度 事業期間: H19年度~H25年度
都市計画決定(最新)	平成21年度	事業認可年度(最新)	令和7年度 事業期間: H19年度~R7年度
事業箇所	目黒区中央町一丁目~同区鷹番二丁目	事業規模	評価対象区間延長 760m
事業概要	補助第26号線は、品川区東大井一丁目を起点とし、目黒、世田谷、渋谷、豊島の各区を経由し、板橋区水川町を終点とする延長約2.2km、標準幅員20mの道路である。当該区間は、目黒区中央町一丁目から鷹番二丁目までの延長760mの区間に幅員20mの都市計画道路を整備するものである。本路線の整備により骨格幹線道路として交通渋滞の緩和、災害時の避難路や延焼遮断帯としての地域の防災性向上、生活道路からの通過交通の排除を目的に整備を進めている。		

2 社会経済情勢等の変化(事業の必要性等に関する視点)

<p>社会経済情勢等の変化 (認可時点から変化がある場合は変化・変更内容欄に記載)</p> <p>(社会経済情勢の変化)</p> <p>本路線周辺の平成27年度の現況交通量は、平成22年度と比較しても、横ばいとなっている。</p> <p>○現況自動車交通量【要町通り】(道路交通センサによる)</p> <p>平成22年度: 4,943台/12h 平成27年度: 4,425台/12h</p> <p>(事業を取り巻く状況の変化)</p> <p>平成31年3月に「学芸大学駅周辺地区整備計画」が改定され、補助第26号線の完成を見据えた街づくりが検討されている。</p> <p>(関連する他事業等の進捗状況の変化)</p> <p>【東北沢】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成18年度に事業着手しており、用地は96%で工事は施工中 <p>【代沢】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度に事業着手しており、用地は8%で工事は未着手 <p>【三信】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成20年度に事業着手しており、用地は99%で工事は施工中 <p>【豊町】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成3年度に事業着手しており、用地は99%で工事は施工中
--

3 事業の投資効果(事業の必要性等に関する視点)

定量的効果 B/C	1.9		
現在価値化総便益額(B)	449.4億円	現在価値化総費用額	236.3億円
走行時間短縮便益	393.8億円	工事費	19.6億円
走行経費減少便益	47.4億円	用地費	213.3億円
交通事故減少便益	8.1億円	維持管理費	3.4億円
定性的効果			
<p><交通> ・交通渋滞の解消 ・物資流動円滑化への寄与 ・バスの定時性 ・鉄道駅アクセスの向上 ・迂回交通の減少</p> <p><景観> ・都市景観の向上</p> <p><防災> ・緊急車両の走行 ・災害時の避難路の確保 ・延焼遮断</p> <p><<らし>> ・公共施設へのアクセス向上</p> <p><安全> ・交通事故の減少 ・バリアフリー化 ・自転車や歩行者のための空間確保</p>			

4 事業の進捗状況(事業の必要性等に関する視点)

事業費の執行状況 (R2年度末時点)			
	用地費	工事費	合計
全体事業費	16,010百万円	1,590百万円	17,600百万円
執行済額	15,904百万円	341百万円	16,245百万円
(執行率)	99.3%	21.4%	92.3%

用地取得状況 (R2年度末時点)		
取得予定面積(A)	既取得面積(B)	用地取得率(B/A)
14,133㎡	13,852㎡	98.0%

一定期間を要した背景、地元の理解・協力の状況

・本事業は、現道のない新設道路の整備であり、地権者が多いことに加え、権利者多数の区分所有マンションが複数存在することから、折衝に時間を要した。

事業の進捗状況・残事業の内容

・周辺住民の当該事業に関する理解も得られている中で、未取得用地の早期更地化を目指し、折衝を進めている。

・現在、照明設置工事を実施しており、引き続き用地取得が完了し工事可能な箇所から排水管設置工事や電線共同溝設置工事、街路築造工事に着手していく。

5 事業の進捗の見込みの視点

事業の実施のめど、進捗の見通し等
<ul style="list-style-type: none"> 関係人の理解を得ながら用地取得を進める。 工事可能な箇所から排水管設置工事や電線共同溝設置工事、街路築造工事に着手していく。

6 コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

コスト縮減や代替案立案等の可能性
(新工法の採用など)(事業手法、施設規模等の見直しの可能性)
・一般的な街路築造工事であるため、施工にあたって、新工法、事業手法、施設規模等を見直す可能性は極めて少ない。
その他のコスト縮減の取組
・施工にあたっては、建設発生土の再利用や再生材の使用を行っていく。

7 対応方針案

総合評価	<p>・本路線は、区部における南北方向の道路ネットワークを強化し、環状道路の役割を担う重要な路線である。</p> <p>・本区間の整備により、区部南部の道路ネットワークが形成され、交通渋滞の緩和と交通の円滑化が期待できる。また、電線類の地中化や街路樹の植栽により、良好な都市景観を創出するとともに、地域の安全性、防災性の向上が期待できる。</p> <p>・中止の場合は、事業効果を発現できないだけでなく、これまでの投資に見合った整備効果も得られなくなる。</p>
対応方針案	継続